

26年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 3月20日～ 26年4月10日

2. 調査実施方法

全国の製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は19社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合]×2+[「やや増加」の評価を行った回答の割合]-[「減少」の評価を行った回答の割合]×2-[「やや減少」の評価を行った回答の割合]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
入荷動向	スギ	22.7	5.0	△ 5.0
	ヒノキ	5.0	5.6	△ 11.1
	カラマツ	△ 100.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 75.0	0.0
消費動向	スギ	13.6	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 10.0	△ 11.1	△ 11.1
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	18.2	10.0	10.0
	ヒノキ	35.0	11.1	5.6
	カラマツ	△ 50.0	△ 100.0	△ 100.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 50.0

スギ原木入荷は、4,5月の増加が、6月には微減に、ヒノキは4,5月の微増が、6月にはやや減に、カラマツ及びトドマツは4,5月の減少が6月には横ばいに。
スギ原木の消費は4月のやや増が5,6月には横ばいに、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツは4,5月の横ばいが6月には減少に、トドマツは横ばいで推移。
スギ及びヒノキ原木在庫は、増加傾向で推移、カラマツは減少傾向で推移、トドマツは4月の横ばいが5,6月には減少に。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/4月	5月	6月
スギ	0.0	△ 22.2	△ 27.8
ヒノキ	△ 44.4	△ 31.3	△ 37.5
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

スギ原木価格は、4月の横ばいが5,6月にはやや弱保合に、ヒノキは弱含みないし弱保合で推移、カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き) ・カラマツ及びトドマツ丸太は冬期入荷時期が終了し4,5月は入荷が低調になる。特にトドマツは国・道有林は林道保護のため完全に入荷が止まる。パレット、梱包向けの需要は5月までは忙しいと思われるが建築用は繁忙期過ぎた。利用ポイントも外材がOKになり新年度以降国産材志向が弱くなることを心配。・山土場に残っているトドマツ丸太は道悪で運搬出できず。今年度の国有林のシステム販売はバイオマス中心で、一般材は競争入札となり、丸太高の予想。引き合いは変わらず強くフル生産続く。北海道の特殊材3m,4m材の在庫薄く、長さ別在庫バランス悪い。・スギ丸太は市場出材増、生産も増。・スギ及びヒノキ丸太は天気回復し、出材順調。・スギ丸太入荷少ないように思う、ヒノキは多い。消費はスギ製材品主体としたいが、ヒノキ丸太多く需給ミスマッチ。在庫は市場在庫で引き取りが滞る、ヒノキ丸太が増えてきた。・5~6月にかけて天候の影響でスギ丸太入荷量が左右される。生産は落とさず製品在庫を積み増す。・ヒノキ丸太の仕入は販売状況見ながらコントロールする、消費も販売量にあわせコントロールする、今月は減少する見込み、在庫は仕入れ、消費に比例させる、6月以降は原木在庫は減らす。・ヒノキ丸太の入荷は季節的に徐々に減少となる、消費は売れ行き低調、在庫は直送で入荷順調。・ヒノキ丸太は普通に出材あり、スギは少ない、消費はスギ3mが特に少なく、4mは合板用がベースで出材少ない。・スギは入荷少なく取り合い状態、ヒノキは少ないが落ち着いている。生産量は落ちていないが仕入れ量の確保に苦戦しており、増産が描けない。旬も悪くなるので必要量以上は仕入れできない。・4月は丸太価格安いが記念市が多くあり横ばい、5,6月はヒノキ丸太価格安いため入荷は減少。4~6月は製品販売不振のため消費原木を減らす。仕入・消化も減少するため在庫は変わらず。・スギ丸太入荷は相変わらず少ない、ヒノキは順調。ヒノキの注文激減、スギは順調。スギ主体の製材をしたいが丸太不足でヒノキも製材せざるを得ない。スギは入荷増えれば在庫ある程度貯まるが、今はまだまだ、ヒノキは少しずつ増。・スギ及びヒノキ丸太は森林組合系統の出材増。凍結時期終わり順調な生産が見込める。入荷増で在庫増。

(原木価格) ・トドマツ丸太は高止まりの予想。

・スギは用途が広く建築の影響を受ける度合いがヒノキに比べ少ないと思う。・スギ丸太は注文と丸太出荷量にも左右されるが5月以降は虫害等で材質的に悪くなるためやや下落と思われる。・ヒノキは横ばいもしくはやや下落で大きな変動はないと予想している。・なぜかスギが17千円/m3と高く、ヒノキは弱い。・スギはジリジリ上昇、ここしばらく経験のない水準まで来る、ヒノキは昨年秋以降の高騰が嘘のような状況で値上がり前の水準まで戻る。・ヒノキ材は販売不振のため仕入れ単価も下落。

26年4月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
生産動向	スギ	4.5	5.0	0.0
	ヒノキ	15.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	25.0	25.0
出荷動向	スギ	△ 20.0	△ 16.7	△ 22.2
	ヒノキ	△ 38.9	△ 25.0	△ 18.8
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	25.0	11.1	16.7
	ヒノキ	38.9	37.5	31.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

スギ製材品の生産は、4、5月の微増が6月には横ばいに、ヒノキは4月のやや増が5、6月には横ばいに、カラマツは4、5月の横ばいが6月には減少、トドマツは増加傾向で推移。
スギ及びヒノキ製材品の出荷は、減少傾向で推移、カラマツは4、5月の横ばいが6月には減少、トドマツは4月の増加が5、6月には横ばいに。
スギ及びヒノキ製材品の在庫は増加傾向で推移、カラマツ及びトドマツは減少傾向で推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 36.4	△ 30.0	△ 25.0
	柱角 KD12×3	△ 36.4	△ 30.0	△ 30.0
	通し柱 12×6	△ 12.5	△ 6.3	△ 12.5
	桁角	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	母屋角	△ 30.0	△ 27.8	△ 27.8
	タルキ	△ 22.2	△ 33.3	△ 22.2
	間柱	△ 35.0	△ 38.9	△ 27.8
	ヌキ	△ 18.8	△ 31.3	△ 25.0
	平割	△ 28.6	△ 21.4	△ 14.3
	ラミナ	△ 25.0	△ 33.3	△ 33.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 50.0	△ 38.9	△ 27.8
	柱角 KD12×3	△ 60.0	△ 44.4	△ 38.9
	土台角 10.5×4	△ 55.0	△ 50.0	△ 33.3
	土台角 12×4	△ 70.0	△ 55.6	△ 44.4
	通し柱 12×6	△ 25.0	△ 33.3	△ 33.3
	ラミナ	△ 30.0	△ 25.0	△ 37.5
カラマツ土台角10.5×4		—	—	—
〃 梱包仕組み板		100.0	0.0	0.0
〃 ラミナ		100.0	0.0	0.0
トドマツサンギ		0.0	0.0	0.0

スギ製材品の出荷価格は、総じて弱含みないし弱保合で推移、ヒノキも総じて更に弱含みないし弱保合で推移。

カラマツ梱包仕組み板及びラミナは4月に値上げし、5、6月は横ばいに。

トドマツサンギは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き) ・トドマツ製材品は引き続きフル生産。端境期で納期に多少の余裕があるが、在庫ゼロ状態続く。 ・スギ製材品は注文が一部増加だが全体では少しづつ悪くなってきた。 ・スギ及びヒノキ製材品の荷動きは年度変わりで一服感。 ・スギ及びヒノキ製材品は、置き場の確保及び品質低下を考え原木在庫に応じた生産とせざるを得ない。ヒノキ製材品が売りづらく、在庫も増えてきている。 ・スギ製材品は、生産は落とさず主にKD材の在庫を積み増す。出荷はグリーン構造材の動きが極端に悪い、KD材も若干落ち着き気味。在庫は増加、需要期に不足が予想され積み増す。 ・ヒノキは、生産は一定量を持って推移させる、出荷は3月横並びと予想、在庫は一定量で推移させる、ただし、側材は販売好調なため減る見通し。 ・ヒノキ製材品は、生産、出荷は昨年同期並み。 ・スギ柱引き合い多い、ヒノキ柱引き合い弱い。 ・スギ及びヒノキ製材品の荷動きの減速が出始めている。特に在庫を積み増す必要は感じない。 ・ヒノキ製材品は販売不振のため生産・出荷を落とす。 ・ヒノキの注文激減し、スギの生産増やしたいが丸太不足で稼働率上げるためヒノキを製材せざるを得ない。スギの出荷は柱及び平角とも順調、ヒノキは様変わりでお荷急減。スギの在庫は少ないまま、ヒノキはある程度増やそうと思っているが貯まり始めた。 ・スギ製材品の出荷量は減少してきたが、5、6月は生産量を落とす予定はない。出荷は関東方面が減ってきている模様。スギ柱材が多少動きが弱い。 ・ヒノキ製材品は販売不振のため生産セーブ。スギ及びヒノキ製材品は全体的に販売減のため出荷もセーブ。単価下落のため在庫を積み増しする。

(製材品出荷価格動向) ・トドマツサンギは丸太価格次第で、当面4月値上げ分のままか。
・カラマツ製材品(梱包仕組み板及びラミナ)は、4月で価格改定(値上げ)は通した。今後は反転しないよう注意が必要。
・ヒノキは、4月はやや下落する予想、5,6月は受注量を見ながら生産する、作り過ぎない。
・スギKD柱は5万円割れ目前で、スギ製材品価格は全体的に下落。
・スギ製材品は素材供給量が多くなく安定推移、建築用途が冷え込むと予想されるが、梱包材用途の需要が量、価格共伸びてきている。
ヒノキ製材品はハウスメーカー向け3m材はまだ良いが4m土台の需要が少ない、4m120角が売りづらいにも関わらず出材は4m18~22cmが多いので値段が下がる。
・スギ製材品は、原木の値下がり、製品の需要減少で価格は下落傾向。ただし、原木価格も下げ止まり、以前のような安値とはならないと思われるため製品価格もある程度のところで落ち着くと予想。
・全体としてスギ強い、ヒノキ弱い、中でも土台が弱い、柱は土台より良い程度、スギ柱は強い、間柱やや弱い。
・ヒノキ製材品は販売不振でやや下落。
・スギ柱角は堅調な需要で相場保っているが、丸太相場と関係なく九州方面から安値材の入荷が増えたという話も聞く。
スギ通し柱及び桁等は若干上昇。ヒノキ製材品は3m柱及び土台が製品市場で急落、その他はあまり上がらなかったため、あまり変化無いが、売れ行きは良くない。
・スギKD柱12角が特に不振の見通し、母屋角4mが不足のため単価横ばい、間柱やや弱くなっている。ヒノキ柱及び土台の単価が急落。

26年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
仕入動向	米マツ丸太	△ 25.0	△ 75.0	△ 25.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 25.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	△ 25.0
	NZラジアータ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ丸太の仕入れは、減少傾向で推移。
NZラジアータ丸太の仕入れは4,5月の増加が6月には横ばいに。
米マツ丸太の消費は4,5月の減少が6月には横ばいに、NZラジアータ丸太の消費は4,5月の増加が6月には横ばいに。
米マツ丸太の在庫は4月の横ばいが5,6月には減少に、NZラジアータ丸太の在庫は減少傾向で推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/4月	5月	6月
米マツ丸太	△ 25.0	△ 25.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ丸太購入価格は、4,5月のやや弱保合が6月には保合に、NZラジアータ丸太は強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZラジアータ丸太は3月も終わり受注も一服して来たが、まだまだ強い状況です。

(原木価格動向)

- ・NZラジアータ丸太はフレートが上昇中です。

26年4月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	26/4月	5月	6月
生産動向			
米マツ製材品	△ 25.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	△ 75.0	△ 25.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	75.0	25.0	25.0
NZラジアータ製材品	△ 100.0	△ 50.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

米マツ及びNZラジアータ製材品の生産は共に4,5月の減少が6月には横ばいに。
米マツ製材品の出荷は4,5月の減少が6月には横ばいに、NZラジアータは4月の横ばいが5月の減少を経て6月には横ばいに。
米マツ製材品の在庫は増加傾向で推移、NZラジアータは4,5月の減少が6月には横ばいに。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/4月	5月	6月
米マツ平角	0.0	△ 25.0	0.0
米マツ正角	△ 25.0	△ 25.0	0.0
米マツ小割	△ 25.0	△ 25.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

米マツ平角の価格は、4月の保合が、5月のやや弱保合を経て6月は保合に、正角及び小割は4,5月の弱保合が6月には保合に。
NZ梱包材及び土木用材は共に横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材は、原木在庫が少ないため生産は減少、製材品の出荷については、注文はそこそこある。

(製材品出荷価格動向)

・製品値上げは、3月で一段落となっている。